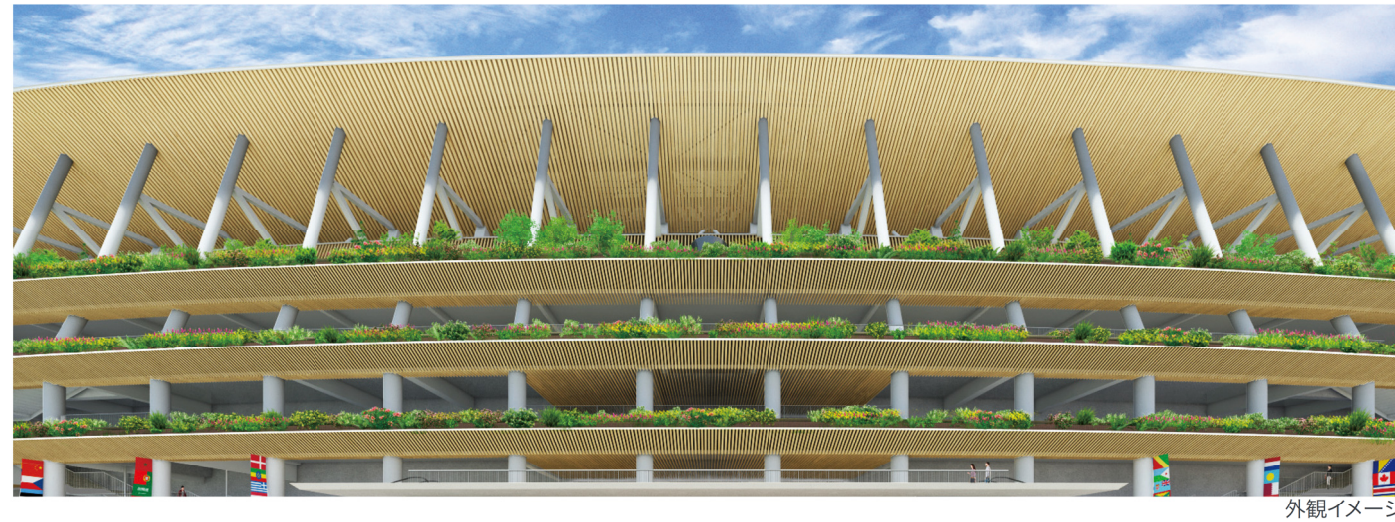


⑧日本らしさに配慮した計画 | 日本の伝統文化を、現代の技術によって、新しい形として表現する方策
日本の気候・風土・伝統を踏まえた木材利用の方策

日本建築の特徴を活かし、気候・風土や景観と調和したスタジアムを創出します

周辺環境を読み解き、先人の知恵を深化させた、日本らしいスタジアムを世界に向けて発信します。



外観イメージ

1 連続した軒庇の水平ラインと周辺の緑の深い陰影により、周辺と調和した外観とします

1 外苑の環境と調和し、観客を迎え入れる軒庇

- 日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した、外観とします。
- 屋根の庇や軒庇の見上げ部は全周を連続した縦格子で仕上げます。外壁を「面」ではなく「線」で構成することにより、「和」を想起させる繊細な陰影が周囲の木々に溶け込み、長大な屋根や壁面による圧迫感を軽減させます。



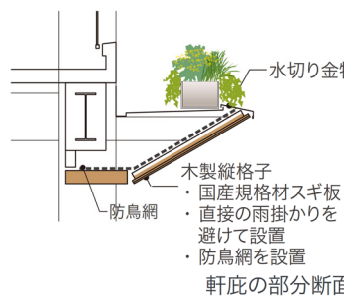
外苑の木々と調和した「杜のスタジアム」

2 「和」を想起させる、縦格子の「繰り返しのデザイン

- 軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成します。水平方向にも高さ方向にも展開した「繰り返しの」構成により、日本らしさをより強調します。
- 木の縦格子には国産の杉の規格材を採用します。設置箇所は軒裏などの雨がかりの少ない部分とし、さらに加圧注入処理(K3仕様)とし、耐久性を高め美観を維持します。



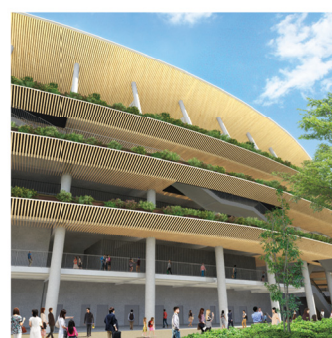
法隆寺五重塔の垂木



軒庇の部分断面

3 梁と柱と開口で構成された「日本らしい」外観

- 外周の低層部は水平に伸びる軒庇と鉛直柱の構成とし、軸組によって生まれた、陰影のある印象的な日本らしい外観とします。
- 外周に壁がないことで、日本の気候風土を活かした風通しの良い空間を創出します。彫の深い軒下は、「木漏れ日」のような陰と緑を望める縁側状の空間を創出します。
- 各軒庇上部にはプランターを配置し、日本の野草など四季を感じることが可能な計画とします。



庇と柱の軸組で構成された外観

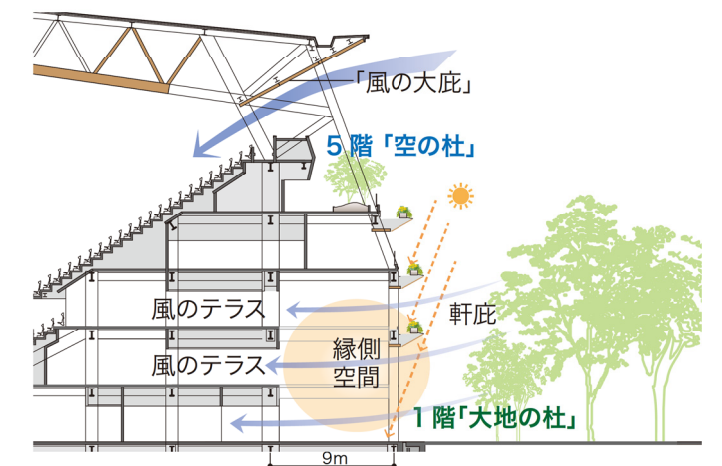


「縁側空間」イメージ

2 「和」の特徴を備えた深い軒庇によって、縁側のような涼しく快適なアプローチ空間を創出します

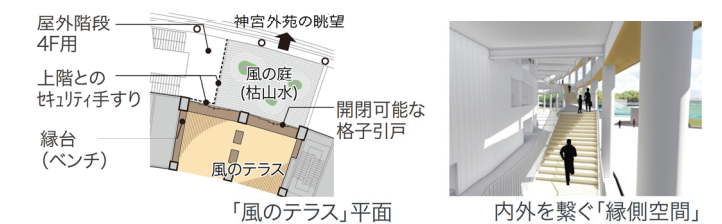
4 深い軒庇が作り出す伝統的な「縁側空間」

- 外壁面を約9m後退させることで生まれる軒下の「縁側空間」は、日常時のオープンスペースとして、ランニングコースや雨宿り空間にもなります。さらにイベント時には、観客の入場時の滞留スペースとしても機能します。
- 各層の軒庇が、夏季の日射を遮蔽すると共に、雨の吹込みを抑えます。また、「大地の杜」を通った清らかな風が「縁側空間」を通り抜け、観客席へと導かれます。
- 日本の伝統的な建築要素である「縁側空間」により、内と外がゆるやかにつながる快適な空間を創出します。



5 観客の憩いの場となる「風の庭」、「風のテラス」

- 「縁側空間」の吹抜け内に、神宮外苑を借景とした枯山水などの日本庭園を配した「風の庭」を設けます。「風の道」は4階からの階段の踊り場を兼ねることで、4階から下りてくる観客も眺めることができる計画とします。
- 「風の庭」に面したコンコースの一部に、観客の憩いのスペースとなる「風のテラス」を設けます。「風のテラス」は吹抜けを介してコンコースやスタンドへ快適な風を取り込むとともに、立体的に人や視線のつながる空間を創出します。
- 「風の庭」や「風のテラス」は、高齢者や親子連れが休憩できるスペースとして利用できる計画とします。
- 「風のテラス」には開閉可能な格子状の引分け戸を設け、冬季や強風時において建物内に取り込む風量を調整することが可能な計画とします。



「風のテラス」平面

内外を繋ぐ「縁側空間」

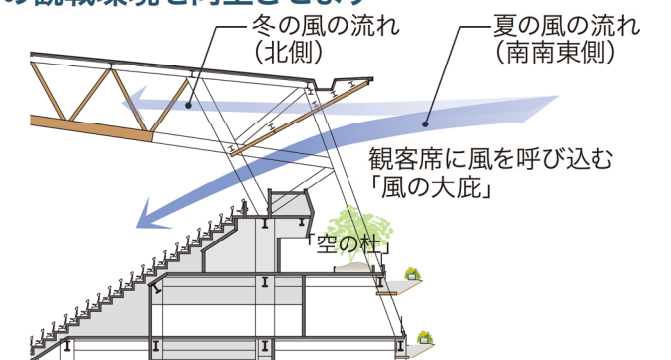


「風のテラス」から「風の庭」を望む

3 季節の風向に合わせた「風の大庇」により、スタンドの観戦環境を向上させます

6 スタンドに風を導く「風の大庇」

- 四季を通して施設周辺の風環境を検証し、3層スタンドに風を導く「風の大庇」を設置することで、スタンドの観戦環境を向上させます。
- 「風の大庇」により、スタンドに導かれた風はスタンド下方へ流れる下降気流となり、観客席に風を呼び込みます。



7 「風の大庇」の格子の幅で風の量を調整

- 日本の伝統的な風の取り入れ方に倣って、風を取り込みます。夏の季節風を取り込むために、「風の大庇」の格子を密にし、風をとらえます。
- 一方、冬季の北風に対しては、格子の間隔を拡げて、風を受け流すようにします。
- 各季節ごとに卓越風に合わせてシミュレーションを検証しながら、格子の間隔を設定します。
- 強風なども想定し、競技をする上で「追い風参考記録」などの影響を及ぼさないように、競技環境に適切な形となるように、格子の間隔を方位ごとに設定します。
- 「風の大庇」の格子は耐候性、防火性、メンテナンス性に配慮してアルミ製とし、焼付塗装とします。

